平成30年5月2日

調 査・研 修 報 告 書（会派個人用）

会派名： 清　　風　　報告者：赤木忠徳

実施場所：新潟県村上市 35万円で10億円の経済効果を生んだ「まちおこしメゾット」仲間、補助金、観光客ゼロから6年で30万人が訪れる町に吉川美貴氏から学ぶ	実施日：平成30年4月24日

■ 目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状　など）

村上市の伝統的な鮭の製造加工販売を営む会社の跡取りに嫁いだ吉川美貴さんは、夫の真嗣さんと、あるきっかけによって町を守ろうと立ち上がり、捨て身の覚悟で町の活性化に挑戦した。平成9年道路拡張が迫っていた時東京の百貨店の催しに出店した時、全国町並保存連盟会長の会津若松市の故五十嵐大祐の車社会という事で、道路を広げると商店街が活性化するという信仰があるが、道路を広げて栄えた町は全国どこにもない。逆に車が通り過ぎるだけの商店街となり、車優先で商店街は分断され、買い物は不便となり客足は遠のき、年寄りにとって危険で住みずらい町となり、拡張による衰退、これが全国の商店街の現状だと諭され、商工会議所や市役所、商店街の人たちからも非難されながら、立ち上がった経緯からこれまでの活動の全てを学んだ。

■ 参考とすべき事項

四面楚歌の中、拡張反対運動でなく町を元気にしようと、発想の転換をし、手書きのマップを近隣の市町村に十万部配布することから始まった。町屋の中を通年とおして22軒で公開した。続いて町屋の人形さま巡り(35万円)が見事成功して、徐々に賛同者が増えてきた。その波及効果は、お年寄りの活性化(自ら説明者)やわが町に対する誇り、地域のつながりなど大きな成果を上げた。多くの全国の皆さんは自分の町を歩いていない、人は歩くと町に新しい発見をする。普段見ている景色に責任がある、自分たちで美しくすることができる。これが黒塀プロジェクトである。

■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

どの町にも素晴らしい宝がある、その見つけ方は、わが町を歩き直す、他所へ視察・見学に行く、他社の声に耳を傾ける、わが町の歴史をひもとき、それを活かすことから始める。

次に重要な事を列記する。

「これをすると必ず失敗する」

1. 最初に会議ありき×
2. やれる範囲でやる×
3. 既存の組織を使う×
4. 出てくる意見に合わせる×

各地現場での行き詰まり要因

1. 資源がない→視察・勉強不足
2. 資金がない→各種助成金に応募する
3. 地元の人が足を引っ張る→福と成果を分かち合う
   →事情に通じていない、無知こそが敵！
4. 実行したがうまくいかない→企画に魅力がない(視察・勉強不足)
   →つめが甘い
   →宣伝が行き届いていない

ともかく成果を出すことに、集中すること。

↓

成果こそが、最大の説得力にになる！

リーダーが頭に描いていることは

↓

言葉だけでは通じない(＝やって見せないと通じない。)

短期間で成果をあげた秘訣

1. 反対者を入れなかった
2. 事業ごとにプロジェクトチームを作った(同じ顔ぶれになる)

時期別のマネジメント

初動期・・・小数精鋭(立ち上げに集中)
成長期・・・組織作り(メンバーの長所を活かして任せていく
　　→意識づくり
安定期・・・組織以外の裾野広い人たちの巻き込み
　　催し等を内容をふくらませる

真の地方再生とは

地方の経済の活性化が地方再生であると注目されているが

山が蘇り、海が蘇り、田畑が蘇り、町が輝き、村が輝き、何よりもそこに暮らす人々が輝くこと。

※　調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

平成30年5月2日

調 査・研 修 報 告 書（会派個人用）

会派名： 清　　風　　報告者：赤木忠徳

実施場所：福島県会津若松市水道部　業務委託による財政負担の節減額を老朽化した水道施設の設備費に充当し、民間の高い技術力で維持管理を行い、水の安定供給をした会津若松市に学ぶ	実施日：平成30年4月25日

■ 目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状　など）

水源地が猪苗代湖にあり自然流下で低コスト運営、水道料金収入の3割が工場用の大口利用者で安定していたが、富士通の撤退により収支バランスが崩れ、市民に新たな負担を求めることが困難な経済状況であり内部経費の削減を行う状況での改革をコンサルタントに任せず、市職員が方向性を示した。

■参考とすべき事項

取水から蛇口まで一貫した責任体制を確保しつつ、浄水場管理は先進技術を大手企業に任せ、送・配水施設の維持管理を市内の地理や水道施設に精通した地元業者に依頼し、料金徴収業務を全国的に実績のある事業者に委託する方式を選んだ。いわゆる会津若松方式である。この事により、当初削減目標を上回る1億4,700万円の効果を生み出し、職員数は施設管理部門は20名で行うことが出来ることとなった。業者選定委員会の委員長に水道事業に精通した首都大学東京の小泉明氏を選定し、日本を代表する水道浄化場管理を果たした。

■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

住民の資産である浄水場を将来にわたって守って　行くには資金と人材の両方の課題を解決する工夫が求められており、今回の滝沢浄水場の場合は、設計と建設、さらに完成後の運転・維持管理までを一括して発注するBDO方式　によって完成された。世界のトップ技術を取り入れ安心安全の水を生み出す事、経費を削減する事を得た水道システムは日本、世界に誇れる施設になった。水道施設のみならず、新規施設を建設するには、業界トップの意見を取り入れ世界に誇れる施設にする努力は必要である。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

平成年３０年　５月　２日

調　査・研　修　報　告　書（会派個人用）

会派名：　清　風　　報告者：　門脇俊照

実施場所：新潟県村上市	実施日：平成３０年４月２４日

■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状　など）

本市でも、まちおこし、まちづくりと声高々に言ってきたが、全て行政頼み、予算ありきのことで、これまでの取り組みで成果は出ていないのが現状です。

新潟県村上市では、一組のご夫婦が取り組んできた経緯、成功例を妻の吉川美貴さんから学びました。

「３５万円で１０億円の経済効果を生んだ方法」

これまでも「まちづくり」「まちの活性化」などの研修・視察を行って来たが今回ほど学ぶことが出来た研修はこれまでにありませんでした。

■参考とすべき事項

村上市は、２０年前、人口３万人で城下町の風情を残す数少ない町と言われながら、大規模な「商店街近代化計画」で城下町の歴史的建造物である町屋を壊し、道路を拡幅し、商店街を新しく建て替える計画が浮上。実行計画進行中に全国街並み保存連盟会長の故五十嵐大裕さんから、道路の拡幅は町屋を壊し城下町としての価値を著しく損なうことになる、もともと魅力のない商店街は車が通りすぎるだけで「拡幅による衰退」が全国で起こっている現象だと言われ、全国を視察した結果「道路拡幅反対」の署名活動を行うも、商店街を激怒させ、市役所も商工会議所もすべて敵に回す結果になる。次に考えたのが反対運動ではなく、古い伝統的なものを生かして町を活性化することが出来れば市民の意識が変わり、町の方向性をかえることができると考えを変え、非常事態のなかで町おこしに着手。最初の行動は、町屋の22軒を通年公開や人形さま巡りプラン。３５万円で手書きのマップを近隣の市町に１０万部配布。成功し多くの見物客が訪れるようになり、徐々に商店街の意識も変わり始めた。

■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

人形さま巡りは35万円で3万人集客、約1億円の経済効果があった。2年目は６０軒の人形飾りで、集客5万人で2億円、3年目は7万人で5億円。

次の一手は秋の集客を狙い「屏風まつり」70軒が参加し春より多くの集客。

2002年には27年ぶりに「SL村上ひな街道号」を走らせることに成功。

なぜ、吉川流の「まちおこし」は成功したのか。

- ●できる範囲でやろうとしない、人形巡りも出来る範囲なら５～６軒。６０軒だから成功。
- ●「みんなで」頑張ろうとしない、「みんな」響きは良いが責任逃れでもある。行政がコンサルに頼るのと同じ。
- ●事を起こして、形にしてみせて気づかせる。会合など開かず個々の許可をもらい物事をすすめる。
- ●多く集まって会議はしない。　多いほど議論が紛糾しユニークさが失われる。
- ●既存の組織は使わない、賛成者だけで物事を進める。
- ●３つのリスクを引き受ける。労力・お金・責任を負う覚悟も必要。

平成年３０年５月　　２ 日

調 査・研 修 報 告 書（会派個人用）

会派名：　清　風　　報告者：　門脇俊照

実施場所：福島県会津若松市　水道部	実施日：平成３０年４月２５日

■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状　など）

水道事業における公民連携の取り組みについて。
業務委託による財政負担節減ゥを老朽化した水道施設の設備費に充当するため、民間の優れた技術力で維持管理することにした会津若松市で研修しました。

■参考とすべき事項

会津若松市では、平成 19 年に全水道の３０％、年間 10 億円使用する半導体メーカーが撤退することになり収支バランスが崩れ、水道料金の値上げが問題になるなか外部コンサルタントには頼らず、市職員が協議を重ね、出した答えが取水から蛇口まで一貫した責任体制を確保し浄水場管理を外部の企業に任せ、送配水施設の維持管理は市内地元業者の水道事業社に依頼。水道料金徴収業務は全国的に実績のある会社に委託することを決定。
このことにより、当初削減目標を上回る約１億５千万円の効果が出た。
外部業者の選定は委員会を設け委員長には水道事業のスペシャリストの首都大学東京の小泉明さんを招聘。
新設の浄水場は設計と建設、さらに完成後の運転・維持管理までを一括発注する BDO 方式で完成された。

■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

本市の水道事業は旧市町の事情がそれぞれ異なっていたのを一本化には出来たが旧庄原市には地域によって水道組合があり運営されている。今後の維持管理が懸念されます。
これからは、運営はもとより施設や給配水管の維持管理にも業界トップの技術を学び意見も取り入れ市民に少しでも安く、安心安全な水道水を供給して頂きたい。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

平成30年5月2日

調　査・研　修　報　告　書（会派個人用）

会派名：　清　　風　　報告者：竹内光義

実施場所：新潟市村上市（町おこしについて）	実施日：平成30年4月24日

■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状　など）

・県北部にある歴史ある城下町【村上】を個性的で活気ある町に甦らせようと、村上市にある伝統的な鮭の製造加工販売を営む会社に嫁いだ吉川美貴さんから、35万円で10億円の経済効果を生んだ【町おこしメソッド】で、仲間、補助金、観光客ゼロから6年間で30万人が訪れる町にした奇跡的な成功法などを学んだ。コンサルタント任せでは絶対に成功はできない。現場を知り、地を這うような努力で現実を動かした。

■参考とすべき事項

・村上市が財政難で身動きが取れない中で、平成16年春【私たちの町は私たち市民の力で再生する】との市民の熱き思いが結集し、このプロジェクトが動き出した。近年では、市民の力により生活空間である【町屋】の内部を公開する取り組みで訪れる人が増えはじめた。3月の町屋の人形さま巡り・9月の町屋の屏風まつりは全国でイベントとして高く評価されて、約2ケ月の間に全国から10万人を超える人が訪れるようになり、徐々に賛同者が増えてきた。又、昔ながらの黒屏を復活させようと【黒屏1枚千円運動】が起こり、市民の力で現在の340mの黒屏が出来ている。この活動はテレビ番組化され全国放映された。更に総務省、国土交通省、内閣府など国から認められた。衰退の一途をたどっていた町に希望の光が差し込み、長い間低迷してきた中心市街地が元気を取り戻してきた。ただこの活気も3月と9月に集中しており、一年間を通しての活性化に一歩の努力が必要。

■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

・改めて村上市の町おこしを研修して、見逃しがちな足元に実に多くの宝が眠っていることや、勇気を持って町に働きかけることが様々な実りをもたらすことに感動した。又、同時に町はどうあるのが良いのか、真の活性化とは何か。自分の町の中での宝の見つけ方として、わが町を歩き直す・他所への視察見学に出かけること・他者の声に耳を傾ける・わが町の歴史をひも解くなど、これからの町づくりに庄原市が取り組むことが重要である。

平成 30 年 5 月 2 日

調　査・研　修　報　告　書（会派個人用）

会派名：　清　風　　報告者：竹 内 光 義

実施場所：福島県会津若松市（水道事業の取り組みについて）	実施日：平成 30 年 4 月 25 日

■目的・課題・問題自校（調査・研修に先立っての思いや本市の現状　など

・水道料金収入の 3 割が工場用の大口利用者で安定していたが、大手企業の撤退により収入バランスが崩れ、市民に新たな負担を求めることが困難な経済状況であった。業務委託による財政負担の節減額を老朽化した水道施設の設備費に充当し、民間の高い技術力で維持管理を行い、水の安定供給をする為に、改革をコンサルタントに任せずに市職員が方向性を示した。

■参考とすべき事項

・会津若松市の水道事業をめぐる状況は、新たな施設整備のための財源の確保、新たな市民に負担を求める水道料金の改正が困難な経済状況であり、企業債の借入れは先送りであり増大し後年度負担になる為、残るは事業の見直しによる内部経費の削減が重要である。その為に、平成 20 年 1 月に水道事業経営改善策検討委員会を設置した。取水から蛇口まで一貫した責任体制を確保しつつ、浄水場管理の先進技術を持つ大手企業に任せ、料金徴収業務を全国的に実績のある事業者に委託する方法を選んだ。この事により、当初の削減目標を上回る 1 億 4,700 万円の効果を生み出した。又、施設管理部門の職員も 68 人から 38 人になり、各種効果が出た。

■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

・私たちの生活に身近な水道が今、全国的に危機的な状況を迎えている。本市においても例外ではない。このような水道を取り巻く新たな局面に対応するために、会津若松市では、新たな取り組みとして基幹浄水場の更新事業を平成 26 年 4 月から平成 30 年まで行った。滝沢浄水場更新整備事業の内容は、設計と建設、さらに完成後の運転、維持管理までを一括して発注する DBO 方式（事業の縮減）で整備された。総事業費は約 139 億円（19 年間・維持管理費含む）であった。